

項目	説明	
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	胃粘液癌の臨床病理学的特徴と予後についての検討
	研究目的	胃粘液癌は胃癌の中でまれであり、非粘液胃癌と比較して診断・治療時の進行度が高く、予後不良であるとされています。しかしながら、過去の報告においては、患者様の背景因子の差が大きく、胃粘液癌の臨床病理学的特徴や予後については未だ明らかではありません。胃癌に対して当センターで手術が施行された粘液胃癌の方と非粘液胃癌の方の特徴と予後について、比較検討します。
	研究対象者	1989年7月から2019年3月の間に、当センターで胃腺癌に対し胃切除術を施行された患者様
	研究期間	西暦 2020年6月15日～西暦 2021年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の管理について 当センターの研究責任者の責任者	当センター	公盛啓介
試料・情報を利用する者の範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	特記事項なし